

(別紙様式2)

令和3年度の目標及びその達成に向けた活動の点検・評価

都 道 府 県 名 : 愛知県

農 業 委 員 会 名 : 豊田市農業委員会

I 農業委員会の状況(令和3年4月1日現在)

1 農業の概要

単位:ha

| | 田 | 畑 | | | | 計 |
|--------|-------|-------|-------|-----|-----|-------|
| | | | 普通畑 | 樹園地 | 牧草畑 | |
| 耕地面積 | 4,840 | 1,470 | 1,470 | 0 | 0 | 6,310 |
| 経営耕地面積 | 2,686 | 695 | 430 | 249 | 16 | 3,381 |
| 遊休農地面積 | 254 | 147 | 147 | 0 | 0 | 401 |
| 農地台帳面積 | 5,591 | 2,505 | 2,505 | 0 | 0 | 8,096 |

※1 耕地面積は、耕地及び作付面積統計における耕地面積を記入

※2 経営耕地面積は、農林業センサスに基づいて記入

※3 遊休農地面積は、農地法第30条第1項の規定による農地の利用状況調査により把握した第32条第1項第1号又は第2号のいずれかに該当する農地の総面積を記入

| | 農家数(戸) |
|--------|--------|
| 総農家数 | 6,322 |
| 自給的農家数 | 3,741 |
| 販売農家数 | 2,581 |
| 主業農家数 | 203 |
| 準主業農家数 | 434 |
| 副業的農家数 | 1,944 |

※ 農林業センサスに基づいて記入。

| | 農業者数(人) |
|--------|---------|
| 農業就業者数 | 3,929 |
| 女性 | 2,045 |
| 40代以下 | 163 |

※ 農林業センサスに基づいて記入。

| | 経営数(経営) |
|-----------|---------|
| 認定農業者 | 217 |
| 基本構想水準到達者 | 0 |
| 認定新規就農者 | 22 |
| 農業参入法人 | 35 |
| 集落営農経営 | 19 |
| 特定農業団体 | 0 |
| 集落営農組織 | 19 |

※農業委員会調べ

2 農業委員会の現在の体制

任期满了年月日 R 5 年 7 月 1 9 日

| | 農業委員 | |
|------------|------|----|
| | 定数 | 実数 |
| 農業委員数 | 19 | 19 |
| 認定農業者 | — | 12 |
| 認定農業者に準ずる者 | — | — |
| 女性 | — | 5 |
| 40代以下 | — | 1 |
| 中立委員 | — | 1 |

| | 定数 | 実数 | 地区数 |
|-------------|----|----|-----|
| 農地利用最適化推進委員 | 45 | 45 | 14 |

Ⅱ 担い手への農地の利用集積・集約化

1 現状及び課題

| 現 状 (令和3年4月現在) | 管内の農地面積 | これまでの集積面積 | 集積率 |
|-------------------|---|-----------|-------|
| | 6,310ha | 2,152ha | 34.1% |
| 課 題 | <ul style="list-style-type: none"> ・平坦部においては、農業法人や個人農家が利用集積の実績を上げているが、さらに集積を図るよう働きかける必要がある。 ・中山間地においては、担い手不足に加え、鳥獣被害が深刻化し、耕作放棄地の増大に拍車をかけている。そのため、担い手の育成・確保を図り、集落営農組織等への参加推進により利用集積を図る必要がある。 ・県・市、JAあいち豊田と連携し、農地中間管理機構への切り替えを円滑に行い、集積の推進を図る必要がある。 | | |

※1 管内の農地面積は、活動計画に記載した耕地及び作付面積統計における耕地面積を記入

※2 これまでの集積面積は、活動計画に記載した担い手(認定農業者及び農業委員会法施行規則第10条で定める者)へ利用集積されている農地の総面積を記入

2 令和3年度の目標及び実績

| 集積目標 ① | 集積実績 ② | (うち、新規実績) | 達成状況(②/①×100) |
|---------|---------|-----------|---------------|
| 2,278ha | 2,105ha | 58.6ha | 92.4% |

※1 集積目標は、活動計画に記載した集積面積を記入

※2 集積実績は、年度末時点で担い手へ利用集積されている農地の総面積を記入

※3 新規実績は、集積実績のうち1年間に新規集積面積(非担い手が自作又は利用していた農地のうち、担い手に対して権利の設定・移転がされた農地)をどの程度増加させたかを記入

3 目標の達成に向けた活動

| | |
|------|---|
| 活動計画 | <ul style="list-style-type: none"> ・地区農業委員会を開催し地域ごとに問題解決に向けた推進方法等の協議を行う。(年4回) ・集積に向けた地権者等の意向把握、働きかけ等、地域との連携・協議を進める。 ・集落営農の組織化と人・農地プランの実質化を加速し、担い手への利用集積を図る。 |
| 活動実績 | <p>新型コロナウイルスの感染防止対策を図りながら計画通りに年4回の地区農業委員会を開催し、地域ごとの課題や具体的な解決策の検討を行った。</p> <p>日頃の農地相談や農地法第3条の3第1項の規定による届出等を通し貸付を希望する土地情報を収集し農地バンクに登録し、借入れを希望する新規参入者、農ライフ創生センター修了者等に対して情報提供を行いマッチングを行った。</p> <p>農地利用最適化推進活動として、農地所有者等への働きかけや出し手・受け手の利用調整等を行った。</p> <p>人・農地プランの検討母体である地域営農協議会に参加し、令和2年度に実質化した人・農地プランの更新を行った(13地域)。また、新たに人・農地プランの実質化を実施した(1地域)。</p> |

※ 活動実績は、目標の達成のために何月に何日何を行ったのか等詳細かつ具体的に記入

4 目標及び活動に対する評価

| | |
|----------|---|
| 目標に対する評価 | 積極的に担い手への農地利用集積・集約化の活動を行ったが、僅かに目標を達成することができなかった。 |
| 活動に対する評価 | 新型コロナウイルスの影響により活動をするのができなかった時期もあったが、利用意向調査後の戸別訪問等を通じ、遊休農地化の課題懸案事項の抽出を行うとともに、積極的に担い手への農地集積・集約化活動を行うことができた。 |

Ⅲ 新たに農業経営を営もうとする者の参入促進

1 現状及び課題

| | | | |
|---------|---|--------------------|--------------------|
| 新規参入の状況 | R元年度新規参入者数 | R2年度新規参入者数 | R3年度新規参入者数 |
| | 16経営体 | 16経営体 | 20経営体 |
| | R元年度新規参入者が取得した農地面積 | R2年度新規参入者が取得した農地面積 | R3年度新規参入者が取得した農地面積 |
| | 5ha | 3ha | 3ha |
| 課題 | 新規参入者の掘り起しに関しては、関係機関と連携し個々に声かけを行うなど推進を図る必要がある。 企業も担い手の一つと捉え、農業参入支援を行っていく必要がある。 遊休農地等、各地域の農地利用状況について、農業委員・推進委員と共有して、新規参入者へタイムリーに情報提供できるようにしておく必要がある。 | | |

※1 新規参入者数は、活動計画に記載した過去3年の農地の権利移動を伴う新たな新規参入者数を記入し、法人雇用や親元就農は含まない。

※2 新規参入者が取得した農地面積は、上段で記入した経営体が取得した農地面積の合計を記入

2 令和3年度の目標及び実績

| | | |
|---------|---------|---------------|
| 参入目標① | 参入実績② | 達成状況(②/①×100) |
| 17経営体 | 20経営体 | 117.6% |
| 参入目標面積③ | 参入実績面積④ | 達成状況(④/③×100) |
| 10.9ha | 3ha | 27.5% |

※1 参入目標及び参入目標面積は、活動計画に記載した参入者数及び農地面積を記入

※2 参入実績は、1年間に新たに参入した新規参入者数を記入

※3 参入実績面積は、上記で記入した経営体が取得した農地面積の合計を記入

3 目標の達成に向けた活動

| | |
|------|--|
| 活動計画 | ・関係機関・各種団体等と連携した支援の実施 ・農地中間管理機構を活用した企業参入の推進 ・空き家バンク付随農地を活用した促進 ・認定新規就農者に対する相談・指導等の支援 ・農ライフ創生センター修了生の就農が行えるよう、農業委員及び推進委員と連携した定着支援 |
| 活動実績 | 各地域において随時新規就農・新規参入を希望する個人・法人等からの相談に対応したり、農業委員会の窓口や農協等関係機関で相談に応じる等、新規就農・新規参入の促進活動を行った。 中山間地において、農事組合法人の設立に向けた支援を行った。 |

※ 活動実績は、目標の達成のために、何月に何日何を行ったのか等詳細かつ具体的に記入

4 目標及び活動に対する評価

| | |
|----------|---|
| 目標に対する評価 | 参入経営体の目標数は達成したものの、面積においては目標を下回ってしまった。 |
| 活動に対する評価 | 中山間地において農事組合法人の設立を支援することで、新たな農業経営体の参入を図ることができた。 |

IV 遊休農地に関する措置に関する評価

1 現状及び課題

| 現 状 (R3年4月現在) | 管内の農地面積(A) | 遊休農地面積(B) | 割合(B/A×100) |
|------------------|--|-----------|-------------|
| | 6,594ha | 401ha | 6.1% |
| 課 題 | 対象地は約13万筆と多く、また広範囲に渡っている。加えて、令和3年度から判定区分や調査項目が増えたこと、調査には時間と労力の負担が大きい。少しでも調査期間を確保できるように、調査票や地図等の準備を速やかにする必要がある。また、判定基準を統一することは難しく、地域や状況によって判定結果が異なることがあるため、研修会を通じて基準を統一する必要がある。 | | |

- ※1 管内の農地面積は、活動計画に記載した耕地及び作付面積統計における耕地面積と農地法第30条第1項の規定による農地の利用状況調査により把握した同法第32条第1項第1号の遊休農地の合計面積を記入
- ※2 遊休農地面積は、活動計画に記載した農地法第30条第1項の規定による農地の利用状況調査により把握した第32条第1項第1号又は第2号のいずれかに該当する農地の総面積を記入

2 令和3年度の目標及び実績

| 解消目標① | 解消実績② | 達成状況(②/①×100) |
|--------|-------|---------------|
| 75.2ha | 99ha | 131.6% |

- ※1 解消目標は、活動計画に記載した解消面積を記入
- ※2 解消実績は、当該年度末時点の遊休農地の解消面積を記入

3 2の目標の達成に向けた活動

| 活動計画 | 措置の内容 | 調査員数(実数) | 調査実施時期 | 調査結果取りまとめ時期 |
|------|-----------|--|-------------------|-------------|
| | 農地の利用状況調査 | 64人 | 7月～9月 | 10月～11月 |
| | 調査方法 | 5～6月に調査図面を作成し、現地調査を7月から9月まで実施。調査後の利用意向調査等、各措置が効率的に実施できる体制をとる。10月からは、順次調査結果をとりまとめ、利用意向調査の通知、非農地の通知を出せるよう準備する。 | | |
| | 農地の利用意向調査 | 実施時期: 令和3年12月～令和4年1月 | | |
| 活動実績 | その他の活動 | 「荒廃農地の発生・解消状況に関する調査」や委員による農地パトロールによって、再生利用困難と区分された荒廃農地について、現況に応じて速やかに「非農地」判断を行い、守るべき農地を明確にする。 | | |
| | 農地の利用状況調査 | 調査員数(実数) | 調査実施時期 | 調査結果取りまとめ時期 |
| | | 54人 | 9月～11月 | 11月～12月 |
| | 農地の利用意向調査 | 調査実施時期 12月～1月 | 調査結果取りまとめ時期 1月～3月 | |
| | | 第32条第1項第1号 | 第32条第1項第2号 | 第33条 |
| | | 調査数: 3,906 筆 | 調査数: 1,690 筆 | 調査数: 0 筆 |
| | | 調査面積: 205.6ha | 調査面積: 96.3ha | 調査面積: 0ha |
| 活動実績 | その他の活動 | 非農地判定を行った面積は約216.5ha | | |

4 目標及び活動に対する評価

| | |
|----------|--|
| 目標に対する評価 | 前年度に遊休農地判定した全ての農地所有者に対して利用意向調査を行い、適正な農地管理の意識付けにつながったことが、目標達成の主たる要因である。 |
| 活動に対する評価 | 遊休農地の措置の業務に係わらず、苦情や各種申請などの日常業務の中で発覚する遊休化した農地についてその解消に向けた指導を行うことができた。利用意向調査や遊休農地の所有者へ担当推進委員が戸別訪問調査を行うことで、現状の把握を行うとともに、農業者の自主的な遊休農地解消に繋げることもできた。 |

V 違反転用への適正な対応

1 現状及び課題

| 現 状 (令和3年4月現在) | 管内の農地面積(A) | 違反転用面積(B) |
|-------------------|--|-----------|
| | 6,310ha | 520ha |
| 課 題 | 対象箇所は、数十年経過している転用地や、近年違反事象が起こったなど、状況は多岐にわたる。一律に指導を行うことは困難であるが、優良農地内に存在する無断転用地を優先的に手掛けていく必要がある。 | |

※ 管内の農地面積は、活動計画に記載した耕地及び作付面積統計における耕地面積を記入

※ 違反転用面積は、活動計画に記載した管内で農地法第4条第1項又は第5条第1項の規定等に違反して転用されている農地の総面積を記入

2 令和3年度実績

| 実 績① | 増減(B-①) |
|-------|---------|
| 519ha | 1ha |

※ 実績は、年度末時点の違反転用面積を記入

3 活動計画・実績及び評価

| | |
|----------|--|
| 活動計画 | 各種申請時に発覚したものは随時の是正指導や、日常の現地調査、利用状況調査などを行った結果を分析し、違反指導対象地を再度現地調査の上確定し、指導を行っていく。 数十年経過している転用地もあるため、指導は極めて困難なものも多い。各地区の状況把握及び傾向をつかみ、農用地区域内の農地を優先的に対象地として選定し、順次是正に向けた対策を講じる。また、関係法令所管部署への情報展開を含め、連携を図りながら取り組んでいく。 |
| 活動実績 | 各種申請の中で判明した事案については、農地への復元または、転用申請の可否を充分検討し、適法な手続きをさせ是正させた。また、通常業務の中で発見されたものについては、現地確認や関係者への聞き取りを即座に実施し、他課との連携のもと指導をし、遅滞なく対処した。豊田市開発事業対策協議会の公民連携開発事業パトロールに参加し、関係組織との連携を図った。 |
| 活動に対する評価 | 日常業務の中で判明した違反転用地や農業委員等から情報があつた違反転用地を中心に是正指導を行うことができた。また、公民連携開発事業パトロールによって、違反転用の未然防止を図ることができた。 |

※ 活動実績は、違反転用の解消や早期発見・未然防止のために何月に何日何を行ったのか等詳細かつ具体的に記入

VI 農地法等によりその権限に属された事務に関する点検

1 農地法第3条に基づく許可事務

(1年間の処理件数: 106件、うち許可106件及び不許可 0件)

| 点検項目 | | 具体的な内容 | | | |
|--------------|------|---|-------------|----------|------|
| 事実関係の確認 | 実施状況 | 事務局が、申請書確認の際に、必要に応じて申請者にヒアリングを行う。再度、農地利用最適化推進委員の調査時に申請者に対してヒアリングを行っている。あわせて現地確認を実施。 | | | |
| | 是正措置 | なし | | | |
| 総会等での審議 | 実施状況 | 全件について、読み上げ審議。農地法第3条第2項各号(不許可の要件)に該当しないことを確認している資料を農業委員に提示している。 | | | |
| | 是正措置 | なし | | | |
| 申請者への審議結果の通知 | 実施状況 | 申請者へ総会等での指摘や許可条件等を説明した件数 | | | 0件 |
| | | 不許可処分の理由の詳細を説明した件数 | | | 0件 |
| | 是正措置 | なし | | | |
| 審議結果等の公表 | 実施状況 | 議事録へ記載(豊田市情報公開条例により公表) 議事録はホームページに掲載 | | | |
| | 是正措置 | なし | | | |
| 処理期間 | 実施状況 | 標準処理期間 | 申請書受理から 30日 | 処理期間(平均) | 23.8 |
| | 是正措置 | なし | | | |

2 農地転用に関する事務(意見を付して知事への送付) ※令和4年1月以降は市長へ送付 (1年間の処理件数: 301件)

| 点検項目 | | 具体的な内容 | | | |
|----------|------|--|-------------|----------|------|
| 事実関係の確認 | 実施状況 | 事務局が、申請書確認の際に、必要に応じて申請者にヒアリングを行う。再度、農地利用最適化推進委員の調査時に申請者に対してヒアリングを行っている。あわせて現地確認を実施。 | | | |
| | 是正措置 | なし | | | |
| 総会等での審議 | 実施状況 | 全件について読み上げ審議。立地基準についての読み上げと、一般基準についての判断一覧を作成・配布するとともに、申請地の立地状況及び土地利用計画等の確認をしながら審議している。 | | | |
| | 是正措置 | なし | | | |
| 審議結果等の公表 | 実施状況 | 議事録へ記載(豊田市情報公開条例により公表) 議事録はホームページに掲載 | | | |
| | 是正措置 | なし | | | |
| 処理期間 | 実施状況 | 標準処理期間 | 申請書受理から 30日 | 処理期間(平均) | 25.1 |
| | 是正措置 | なし | | | |

3 農地所有適格法人からの報告への対応

| 点検項目 | 実施状況 | | |
|-------------------|--|-------------------------------|-------|
| 農地所有適格法人からの報告について | 管内の農地所有適格法人数 | | 35 法人 |
| | うち報告書提出農地所有適格法人数 | | 32 法人 |
| | うち報告書の督促を行った農地所有適格法人数 | | 34 法人 |
| | うち督促後に報告書を提出した農地所有適格法人数 | | 31 法人 |
| | うち報告書を提出しなかった農地所有適格法人 | | 3 法人 |
| | 提出しなかった理由 | 再三の催促を行っているが提出がされず、引き続き催促を行う。 | |
| | 対応方針 | | |
| 農地所有適格法人の状況について | 農地所有適格法人の要件を欠くおそれがあるため農業委員会が必要な措置をとるべきことを勧告した農地所有適格法人数 | | — |
| | 対応状況 | | |

4 情報の提供等

| 点検項目 | 具体的な内容 | | |
|---------------|--------|--|-------------------|
| 貸借料情報の調査・提供 | 実施状況 | 調査対象賃貸借件数 14,332件 | 公表時期 令和4年3月 |
| | | 情報の提供方法:市ホームページに掲載 | |
| | 是正措置 | | |
| 農地の権利移動等の状況把握 | 実施状況 | 調査対象権利移動等件数 421件 | 取りまとめ時期 令和4年3月 |
| | | 情報の提供方法:農地の相続等の発生時における各種手続きの際に提供を受ける。 | |
| | 是正措置 | | |
| 農地台帳の整備 | 実施状況 | 整備対象農地面積 7,993ha | |
| | | データ更新:毎月、事務局職員が、農地の権利移動等により変更があったものを更している。 | |
| | | 公表:農地情報公開システム | |
| | 是正措置 | | |

※その他の事務

上記ⅡからⅥに掲げる事務以外の事務について、次年度の目標及びその達成に向けた活動計画を作成する場合には、それぞれの事務ごとに、上記様式に準じて取りまとめること。

VII 地域農業者等からの主な要望・意見及び対処内容

| | |
|--------------------|-------------------------|
| 農地利用最適化等に関する事務 | 〈要望・意見〉 なし 〈対処内容〉 |
| 農地法等によりその権限に属された事務 | 〈要望・意見〉 なし 〈対処内容〉 |

※ II～VIの事務について、活動を通じて地域の農業者等から寄せられた主な意見及び対処方針について記載

VIII 事務の実施状況の公表等

1 総会等の議事録の公表

☒ HPに公表している

☐ その他の方法で公表している

2 農地等利用最適化推進施策の改善についての意見の提出

意見の提出件数

0 件

| | |
|----------------|--|
| 提出先及び提出した意見の概要 | |
|----------------|--|

3 活動計画の点検・評価の公表

☒ HPに公表している

☐ その他の方法で公表している